



| | |
|--------------|---|
| Title | 胃の伸展と形態に就て |
| Author(s) | 櫻木, 四郎 |
| Citation | 日本医学放射線学会雑誌. 1953, 13(7), p. 442-443 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/16525 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

胃の伸展と形態に就て

On the Extension and the Form of the Human Stomach

東京医科大学放射線医学教室(主任教授 醫學博士 本島柳之助)

櫻木四郎

(昭和28年3月15日受付)

正常胃の形態を、牛角形(Stierhornform-Holzknecht)と鉤形(Angelhakenform-Rieder)とに分つて、其の間に移行形を設け、長胃(Langmagen-Rieder)を含めて、我々は、診断の基準として來たのであるが、之等は共にバリウム粥200～250cc飲用時に於ける形態であつて、斯くの如く、日常攝取食物の1回量に比して遙かに少い容積のバリウム粥が、果して充満せる胃の正しい形態を現わしているか否かに就ては即断し難い。且つ、攝取量の増加に依る胃の形態變化に就ては、未だ詳細なる報告を見ない。

曩に、余は、バリウム粥攝取の耐容量に就て實驗を行つた際、味覺の個人差により平均量620ccなる結果を得たのであるが、今回は600ccまで飲まし得たる症例に就て、其の形態の變化と蠕動の状態とを觀察した。

又、余等は、朝食攝取後の患者に就て、午後、胃内に残遺食物無しとの想定に於て胃の透視を行い、豫期に反し食物残渣とバリウム粥とが、混和し、宛も陰影缺損に近き胃邊縁を視ると同時に、幽門狭窄に依る代償性胃擴張の如き影像に遭遇する場合を經驗している。日を變えて検査すれば、常に鉤形或は牛角形にして、胃癌及び幽門狭窄の症狀を見ない。

茲に於て、普通食攝取直後の胃に造影剤の少量を加え、其の形態に何等かの變化が現われるや否やを實験した。

實驗例は、27歳の男子にして昭和21年4月以降(満3年)の觀察に於て胃疾患を認めず、且つ既往に於て著患を知らすと言ふ。外食券食堂利用者にして、少量の飲酒及び喫煙の他、多食、大食及び

偏食の傾向なし。其の他、全身著患なく健全なる生活を營む。體格中等、栄養可、筋骨稍々逞まし。

バリウム粥攝取による一般的胃レントゲン検査を行うに、鉤形胃、正常緊張、粘膜皺襞像正常にして蠕動も規則正しく、十二指腸球部亦正常、何等の病的變化をも認めない。

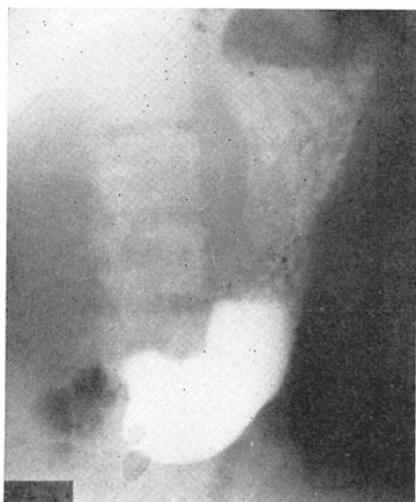
第1圖は150cc、第2圖は300cc、第3圖は600ccのバリウム粥攝取時の立位、背腹透射レントゲン像であるが、其の形態を視るに、第2圖及び第3圖は、夫々、第1圖の胃形を、飲用量増加せるだけ、全體的に擴大したる状態を示す。蠕動波は、攝取量を増すに従つて、深くなり、透視上、周期は短縮し、蠕動の起始部は噴門に近づく。

次に、第4圖は、同一人に普通食攝取後40% Moljodol 20ccを嚥下せしめたる胃のレントゲン像である。

食物は米菜合わせて895立方厘米、コツペパン1箇と番茶300ccにして、當人は満腹を訴う。Moljodolと食物との混和悪く、胃の全景を捉え得なかつたが、外側Moljodol斑の周邊に黒線を以て豫想曲線を畫きたるに、第3圖(バリウム粥600cc攝取)に比して全く其の形態を異にし、寧ろLuschkaのAnatomischer Magen、即ち、屍胃の形態に近づけるを觀る。

以上の實驗は甚だ不備にして、之れを以つて總てを斷するは誤謬の大に過ぐる虞れあるを知るものであるが、余等の検査の対照にとつて、バリウム粥の量が、常に適當なりや否や、即ち、容量小なる胃に過量のバリウム粥を、或は、容量大なる胃に少量のバリウム粥を與えている場合があるのではなかろうか。斯る場合、蠕動の發現時間、周

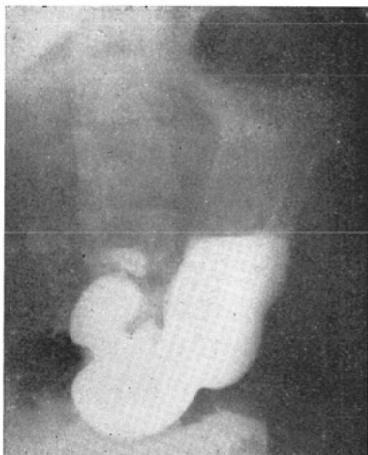
第 1 圖



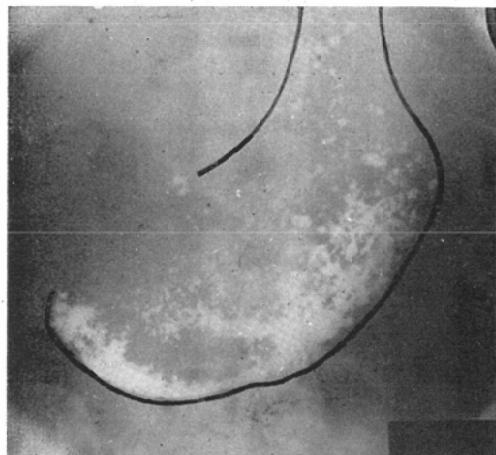
第 2 圖



第 3 圖



第 4 圖



期及び強さ等が異つてくると同時に胃の形態も亦變化するために、其の診斷的判定に誤りを來す虞れはないであろうか、との疑問を有つことは正しいと信する。

既に報告せる如く、牛角胃もバリウム粥攝取量を増すにしたがつて、鉤形に近づく。然して鉤形胃は又、其の攝取量を増せば、Laschka の解剖胃に近づく。攝取物の性質及び重量が、胃形に與える影響に就ては、未だ検索の結果を報告するに到らないが、普通食と造影剤の混和に於て、斯く胃

形が變化することよりして、生態胃と屍胃との間に緊張に依る差のあることは當然であるが其の差異の大きさは、是迄考えられていたほど大きなものではないとの知見を得たので、茲に報告する。

文 獻

- 1) Cole: The living stomach and its motor phenomena, (Acta. radiol. Bd. 9).—2) Elze: Über die Form des Magens, (Med. Klin., 1921).—3) Forsell: Über die Beziehungen der Röntgenbilder des menschlichen Magens zu seinem anatomischen Bau, (Fortschr. Röntgenstr., 1913).—4) Schlesinger: Die Grundform des normalen und pathologischen Magens, (Berl. klin. Wschr., 1910).